

ホーム名：グループホーム東神田の里（けやきユニット）					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の方針をユニット毎に話し合い、その思いをユニット内に掲示することで職員が共有し、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方に協力していただき、小学校の運動会等の行事に参加させていただいている。また、隣接の同法人施設と連携して、夏祭りや敬老会を実施しており、ご家族や知人の方に参加していただいている。地域の住民の方と挨拶を交わすだけでなく、気軽に来所していただけるよう声掛けをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設入口に介護相談の張り紙を掲示している。また、運営推進会議で地域の役員の方々に認知症の方の理解を深めていただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に、ご家族と入居者にできる限り出席していただき、ホームに対する意見やご要望を聞かせていただいている。また、参加していただいた方には、議事録の郵送を行い、サービスの向上に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者には、現場の実情を積極的に伝えることを継続して行っている。また、運営推進会議の出席をお願いしているが、都合により参加していただけていない。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束の廃止委員会を設置し、会議の中で、話し合いを行っており、言葉の拘束もあることを説明している。玄関の開錠はまだできていない。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内の虐待防止については、入浴時やトイレ介助時に身体のチェックを行うように努めている。職員に年間研修計画での研修参加を促し、虐待防止に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在支援していく対象者がいないが、勉強会を通じて成年後見人制度を学ぶ機会をつくっていきい。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結時、また、改定等があった場合は、入居者やご家族等に説明を行い、十分にご理解の上、同意書にサインをしていただいている。また、疑問点がある場合は、後日再度説明をさせていただくこともある。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ユニットの入り口には、ご意見箱を設置しており、ご家族等のご意見・ご要望を聞かせていただくようにしてる。利用者やご家族等から、ご意見や苦情等がある場合は、苦情担当者が窓口で話しを聞かせていただく。解決責任者が解決できない場合は、第三者委員会へ報告を行い、話し合いの結果を苦情申立人へ返答している。また、その内容については書面にて施設内に貼り出します。</p>		
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月の会議で職員からの提案があればできる限り実施できるように書面に記録し、管理者へ報告、相談してできるものから実行している。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員が向上して働けるよう年間研修計画を作成し、研修への参加を促している。職員がスキルアップできるように資格手当等を取り入れて、条件の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の年間研修計画での研修へは、出来る限り出席している。また、外部研修への参加も積極的におこなっている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>ケアマネ・相談員連絡会議を通して同法人他施設の職員と交流できる機会を持っている。同法人他施設とは、勉強会を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談があれば、入居を考えておられるご本人に来所していただき、ホームをご覧になられて雰囲気を感じていただけただけ後、不安や要望を聞き出せるよう配慮している。それでも不安がある場合は、職員が何度も訪問させていただくことにより、ご本人の安心を確保できる環境づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居の段階で、ご家族が困っている事や不安が残っている場合は、来所していただき説明を行っている。また、来所していただく時間の調整がつかない場合は、訪問をさせていただき、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居していただく前には、見学をしていただいております。その後、初回の面談では、自宅や病院等に訪問させていただき、ご本人や担当ケアマネージャー、ご家族に聞き取りを行い、今必要とされているサービスが提供できるように努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>毎日できることは手伝っていただき、ご本人が役割を持つことで介護される一方の立場でないことを伝えている。月に2回の手作り食の際には、調理方法や味付けをおしえていただき、入居者との関係を築いている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時を通して、職員全員が、ご本人とご家族のよき理解者になれるように、コミュニケーションを図ることに努めている。また、ご本人とご家族と一緒に旅行へ行かれることもあり、馴染みのある場所で過ごしていただくことで、ご本人とご家族の絆を大切にさせていただいている。帰所後は、旅行での話を聞かせていただくことで、職員との関係を深めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会時間に決まりはあるが、声掛けをして時間外でも来ていただいている。また、以前行かれた場所への旅行や馴染みのある美容室への定期的な外出をしていただき、これまでの関係が途切れないように支援している。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ちぎり絵や共同作業の手工芸を用い、利用者同士で談笑しながらな時間を過ごしている。コミュニケーションがうまく取れない方には職員が隣に座り、作業のサポートを行い、入居者同士の関わりを支えあえる支援に努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居されたご家族が、ホームに来所されることもある。現状の思いを聴かせていただき、相談や支援に努めていることで、話し合える関係づくりを築いている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、一人ひとりの思いや希望を傾聴を行い、実践につなげている。会話が困難な方には筆談でコミュニケーションを図ることで本人の思いを実現できるように努めている。また、申送りノートでの情報の共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	フェイスシートをもとに、これまで生活してきたスタイルをできるだけ継続できるように努めている。面会時には出来るだけご家族や関係者等とのコミュニケーションを図り、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化や職員が気づいたことは、入居者一括管理シートに記入している。入居者のできる事や出来ない事はカンファレンス等で把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、3ヶ月に一度モニタリング、アセスメントを行い作成をしている。必要時には、サービス担当者会議を実施し、介護計画書の見直しを行っている。また、日々の生活の中で変化があれば、その都度計画の見直しを行い変更をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	新たな気づきや普段の日常と違うと感じたことは、個人記録や入居者一括管理シートに記入し、職員間で共有しながら実践している。必要に応じて介護計画書の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食やコンサート、美容室やお墓参りにでかける等、本人とご家族の希望に即した外出支援をしている。また、隣の同法人の特養やデイサービスで開催されるボランティアや行事にも自由に参加させていただき、他施設との交流にも努める等、できる限り柔軟な支援ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の方に協力していただき、学校行事への参加を行っている。また、ボランティアを活用できるように、社会福祉協議会への申し込みを行い、入居者が安全で豊かな楽しい暮らしができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、かかりつけ医を、本人及びご家族に希望を聞かせていただくようにしている。専門的な医療の受診の際には、主治医より紹介状をいただく等、適切な医療が受けられるように支援を行っている。		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護は定期的に来所していただいている。来所時には、入居者の情報を細かく伝え、受診が必要であれば、主治医の診察を受けていただけるように支援を行っている。また、緊急時には24時間連絡がとれるようにしており、夜間帯であっても適切な医療を受けていただける体制をとっている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院については介護サマリーで情報提供を行っている。入院中はお見舞いに行き、看護師や地域連携室の相談員に回復状況を聞き取り、ご家族からも情報を得るようにしている。退院後は、担当医や看護師に連絡を行い、話を聞きいて、職員が情報を共有している。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化、終末期については、ご家族の意向をできる限り添えるように努めている。家族の意思表示をもとに、終末期に向けたサービス内容の変更を行い、事業所でできることを説明して方針の決定を行い、支援させていただけるよう取り組んでいる。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応については研修を行い、職員間で伝達を行っている。また、いつでも対応ができるように、緊急時対応マニュアルを設置し、ご家族にも希望の搬送先を確認し、スムーズに対応できるように努めている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を通して、昼夜の避難誘導や、災害時の避難経路を災害マップで避難場所の確認を行い、職員で避難経路を実際に移動しながら話し合っている。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重した対応に心がけている。申し送り等、情報の引き継ぎでは居室番号で行っている。個人的なお話しをする場合は、居室にてプライバシーの確保に努めている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>自己決定できるように、個別ペースに合わせて一人ひとりの思いを傾聴し、希望を表せるように、会話のしやすい雰囲気づくりをしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりが自宅で生活しているということを基本において、個々の人格を尊重し、その日の状態によりレクリエーションへの参加や、家事の手伝い等希望に応じたゆとりのある暮らしをサポートしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>整容品を持参されている方が多く、起床時や入浴後等に、化粧や髭剃り等身だしなみが随時できる時間を設けている。また、ご本人やご家族の意向があれば、訪問理容を利用していただきその人らしいおしゃれができるように支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>普段は、業者から届く食事を職員が提供しているが、手作り食の際は、入居者と職員と一緒に調理を行っている。時には入居者に味付けや調理方法を教えてもらい、互いに楽しい食事ができるように支援している。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分摂取量がすぐに把握できるように水分排泄チェック表に記録している。水分量が不足している方は、飲み物の味を変えたり職員が細目に促しを行って水分量を確保している。また、どうしても食事量が摂れない方には、訪問診療時に主治医に相談し、処方していただいた経腸栄養剤を服用することで栄養のバランスを保っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>自分で口腔ケアができる方には、声掛けをして手入れをしていただいている。介助が必要な方には、職員が口腔ケアを実施させていただける。また、訪問歯科が必要な方には、週に一度の口腔内清掃を利用している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>水分排泄チェック表で、職員が入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け促しを行いトイレ誘導を行っている。ご本人が失敗をしないことで、自信をもつていただき、スムーズに排泄ができるように支援している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>バイタルチェック表と水分チェック表で排便の状況を職員間で把握している。個人的に毎日ヤクルトや牛乳を飲まれて予防されている方もいらっしゃるが、おやつ時間に、繊維質の多い食べ物や、手作りのミックスジュース等を提供させていただき、便秘の予防解消に努めている。また毎日、午前午後と体操を実施しており、運動不足による筋力の低下等で便秘にならないように取り組んでいる。</p>		

45	17	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に応じた入浴は現在できていないが、入浴は週に回、足浴は毎日実施している。入浴の際は、職員と日常会話や昔話をしたり、音楽鑑賞をしながらの足浴と楽しんでいただけるように努めている。入浴拒否がある場合は、時間をずらして声掛けをしたり、別の職員が声掛けをして対応している。		
----	----	--	--	--	--

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣で遅く休まれる方に対しては、眠くなるまでフロアで過ごしていただき、気持ちよく安眠していただけるように、できる限りご本人の意向に添うように支援を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬剤情報は職員がいつでも見れるところに保管し、情報の共有に努めている。服薬については職員が管理をし、服用していただいている。症状に変化がある場合は一括管理シートに記入し、変化を見逃さないように支援している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の楽しみや気分転換として、手工芸をされたり、嗜好品をできるだけ好きな時に食べていただけるようにしている。家事では、洗濯物を干したり、たたんだり等、個人個人に役割をもった生活ができるよう支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば出来る限り外出や散歩に行き、散歩シートに記録している。また、ご家族から要望で家族旅行にスムーズに出かけられるように支援している。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことは紛失や誤嚥の可能性があるので、ご家族からは止められているが、買い物に行く際には、入居者の力に応じて所持していただき、使えるように支援をしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族の協力のもと、電話が必要な方には、携帯電話の所持や、居室に固定電話をおいている。よく会話をされる相手には、ワンタッチでダイヤルができるようにしている。ご友人や、ご親族からの手紙もやりとりができるように職員が支援している。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、テレビの音が大きいと言われる方もいるので、画面に字幕を出して、適度な音量で視聴して頂いている。また、フロア内や居室玄関の入口付近には、季節に応じた作品や、職員と入居者の写真の展示、花や観葉植物も飾り、生活感、季節感がでるように工夫している。特に夏場冬場は、冷暖房を細目に調整し、冬場は加湿器を設置して、室温の維持に努めている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時には、入居者同士の交流を深めていただくために、席を換わっていただくこともある。また、一人になりたいと言われた方には、席を移動してくつろいでいただけるスペースを設けている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族と相談しながら、馴染みのあるものや花を随時持ってきていただき、入居者が、自分の居場所を確認できるように支援している。た、ご本人からの希望により、マッサージ器を設置していただき、できる限り心地よく過ごせる居室づくりに努めている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりを理解し、その方に応じた支援ができるように、手作りの案内表示を張り付けて、安全かつ自立した生活ができるように工夫をしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない